

[本田]熊本市現代美術館のエントラン スすぐに設けられているホームギャラ リー(美術図書室)はとても雰囲気が素 敵ですね。美術館としての癒しの空間を 感じ取れます。そのギャラリーの片隅に はトラップを見かけました。今回はIPM の取組みについて話を伺いますが、熊本 市現代美術館では学芸員だけではなく、

総務職員も含めた全館で取り組まれて いる点がポイントですね。

[木本]それでは、はじめに熊本市現代美 術館のIPM実践に至るきっかけについ てお話を伺いたいと思います。

[董虔]熊本市現代美術館では2年前に薬 剤燻蒸による大きな事故を起こしてし まい、所有者や寄託館をはじめ、多くの 関係者の方々に多大なるご迷惑をお掛 けしました。美術館では展覧会作品の貸 し借りの度に、必要に応じた薬剤燻蒸の 実施を行いますが、その薬剤燻蒸への固 定観念と、他方で私たちの作品への保存

管理や燻蒸薬剤に関する知識の欠如が 起因しました。

[富澤]特に当館では複合ビルの為に燻 蒸の経験がありませんでした。燻蒸業者 と学芸との協議が十分になされておらず、 燻蒸業者への過信がありました。この事 故を真摯に反省した上でより良い館作り、 環境づくりに館全体の運営システムの 変更に着手することになりました。ちょ うど九州国立博物館(以下、九博)より文 化財保存研修案内があり、研修に参加し たことでIPMを知るきっかけになりま した。

参加するのに、総務だから行かないとの 選択肢はありませんでした。

[富澤] 平成23年の九博研修報告会の中 では、福岡市美術館の学芸と総務が一緒 に、IPM活動を報告されていたのです。「総 務でもやれることがある!!という言葉 と実践が印象に残り、当館では杉谷さん がそのIPMを担えるパートナーとなっ たことに頼もしさを感じます。2年間の「む し・カビ記録ノート」「温度・湿度記録」を 一人で継続してみて、夏と冬の環境変化 や虫の活動する時期を知ることができ、 当館の環境に関する個性を把握するこ とができました。当館にとってのベース 作りになったと思います。これからは杉 谷さん、蔵座さん、私の3名でIPMをチー ムで行う環境ができました。

[薫塵]展示室や収蔵庫の各所へのトラ ップの配置、回収、記録ノートを取りなが ら、温湿度計で室内環境を記録していま す。温湿度計は展示室にデジタル計、収 蔵庫に毛髪記録計を使用しています。実 は毛髪記録計及びデジタル計も開館当 初から購入していたのですが休眠の状 態でした。(笑)トラップに捕獲した虫も 杉谷さんがデジカメで撮影し、同定を行 っています。最近害虫事典が欲しいと購 入希望を受けました。(笑)

私が担当しますホームギャラリーの 本棚やカーテン下の換気、天井の間接照 明部のホコリ取りなど、今までやってい なかった当たり前のこともするように なり、掃除しながら新たな気づきを感じ ています。

[本田]美術館の多くが行っているのは 館内空間をベースとした、あるポイント の温度・温度の設定値管理だけです。で も実態は展示室では来館者や展示ケー ス等の什器によって温湿度にパラツキ が生じ、収蔵庫においては収蔵棚や収蔵 品等によってパラツキが発生します。そ もそも、部屋の高い所低い所でも異なり ます。IPMは複数個所で実際の温度・湿 度の実測値を把握することで、発生原因 を特定し対処できます。IPMでは機械任 せにするのではなく、実際の現場を知ら



[木本]最後に今後の活動の発展につい てお話をお伺いします。

[**霧底**] 当館は開館してから10年余り、IP M活動についてはまだ始めたばかりです。 IPM活動については正直、職員みんなに とって「後から出てきた業務」であるこ とは否めません。「IPM業務」と言えるほ ど日常業務へ落とし込めるよう、気持ち を切り変えることが重要だと認識しま した。九博での研修は、意識の変化を与 えてくれる貴重な時間でした。資料保存 に関する知識向上だけではなく、IPMの 理念を共感でき、特に研修に参加した他 館の活動や状況を知るのも非常に勉強 にもなるし、面白い11年、2年と経験を 積み重ねながら、全職員が「IPM業務」に 携われるように発展させたいと思います。 190名のボランティアの方をはじめ、ミ ュージアムショップやレストランの運営 会社、さらにビル管理会社も含めた外部 との連携を拡げていきたいと思います。 [杉替]IPM研修や実践活動をしていると、 IPMは来館者サービスでもあるのでは ないかと感じることもあります。個人の 意識の変化と共に、館全体の運営・管理 にも影響を与えてくれました。一般に学 芸と総務は区分されますが、「IPM」を合 言葉に共通の目標ができたことで、他の 業務についてもお互い共有することが できたし、各々の業務への理解も可能に なったことが大きなポイントでしょう。 各部門が孤立化しないように、さらに職 員間連携の発展を期待していきたいと 思います。

「富澤」よりよい館づくり、環境づくりへ 着手したばかりです。当館のIPMチーム



は総務の杉谷さん、ライブラリアン(図 書館司書)でもある蔵座さん、学芸の私 のパックグランドが違う混成チームです。 これまで学芸は作品を中心に、総務は人 を中心に見ていた各専門の視点や館の 運営管理の視点で手を合わせて進めて いき、来館者サービスへつながるように 発展していきたいと思います。館内では 10年計画で、幹部も含めた全プロバー 職員が九博研修を受講するブランも構 想しています。また、今年の当館のボラ ンティアの研修旅行では九博の環境ボ ランティアとの交流を計画しています。 職員とボランティアの方々とともに、 IPMを意識した美術館の環境づくりに 取り組むことで、自分たちの自信に繋げ ていきたいと思います。

[本田][IPM]をキーワードにした総務 と学芸の一体感は見事ですね。見習いた いものです!これまで文化財の扱いは学 芸のプロの領域とされていましたが、文 化財を総合的にまもることはイコール 総務担当にとっても来館者サービスの 一環であるという視点は興味深いとこ ろです。また館内外に広がるミュージア ムにかかわる色々な立場の人たちの交 流もこれから楽しみです。

[木本]本日は貴重なお時間をいただき まして、ありがとうございました。

全館一丸でのIPMへの取組み

熊本市現代美術館







本田 光子(九州国立博物館 学芸部 特任研究員) 木本 拓郎(金剛株式会社全国チーム チームリーダー)

[本田]この事故はどこでも起こりえた ことを十分に認識しなければなりません。 これまでの薬剤依存が臭化メチルの全 廃以降、それに代わる文化財認定薬剤及 び資料保存管理手法の周知が行き渡っ ていないこと、さらにもう少し踏み込ん で言えば、資料の生物被害対策そのもの が丸投げで外部委託されていることが 反省すべき点でした。

Interview

[木本]研修をきっかけにした館内での 取組みについてお話を伺います。

[富澤]平成22年に3日間の九博研修を 終え、当館が日常管理を何もできていな かったことに気づきました。例えば九博 では場所によって温湿度のパラツキが あることを把握されていますが、当館で はそのような環境の違いや変化は把握 していませんでした。それは当館が新し い施設設備の為に過信し、環境づくりの 必要性を誰も感じていなかったという ことでした。早速、館内の展示室や収蔵 庫の数か所にトラップと温湿度記録計 を配置し、自分で「むし・カビ記録ノート」 を作成し記録を取り始めました。

[薫座] 冨澤さんの九博研修報告が起点に、 「むし・カビ記録ノート」の情報共有が進 みました。それまで虫やカビ、環境づく りへの意識がなかったので、非常に刺激 を受けました。特に「むし・カビ記録ノート」 には袋詰めした実際の虫が添付してあり、 場所と時間を記録されていますので、リ アルな資料になります。(笑) 職員全員に 回覧し始めてしばらくしてから、事務局 長が施設図面に虫の捕獲場所のマッピ ングをしてくれました。マッピングから どこに虫が多くいるのかが判別できて 重宝しましたし、このマッピングから職 員全員の意識の変化を感じました。



IPMチームの活動の様子

[杉谷]研修報告を受けて、みんなでやろ うとなったのですが、「みんな」とはどこ まで共有していけばいいのか?という 疑問もありましたし、「学芸のみんな」で あって総務担当の私が作業をやるとは 当初は思いませんでした。

[本田]では総務の杉谷さんが九博の研 修に行くことは大変だったのではない

[杉谷]事故については誰か一人の責任 ではなく、館全体としての意識と取組み が重要だと思いました。ですから研修に **L**本市現代美術館

所在 地/熊本市中央区上通町2-3 開館時間 /10:00~20:00 休 館 日/火曜日(休日を除く)、年末年始 料/常設展示室:無料 企画展示室:展覧会によって設定 R L /http://www.oemk.or.jp/

文化施設